

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣商業高等学校

学校番号 26

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 知・徳・体の調和のとれた豊かな心と健やかな体を育成 (2) 地域、家庭、学校の連携協力による明るく、活力ある、地域社会人の育成	
2 評価する領域・分野	◇教務部（教育課程・学習指導）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活実態調査の回答で「半分くらいの科目が理解できない」が6.0%、「ほとんどの科目が理解できない」が1.7%と、その合計値が過去3年比最小値であり、教員の授業改善が進んでいると思われる。ICT機器の活用により更なる改善を進めたい。</li> <li>生活実態調査の回答で「前もって計画を立てて勉強する」と回答した生徒が50.2%（昨年度55.8%）で、若干減少した。計画的に学習する習慣を付けさせるため、スケジュール管理手帳の活用を推進する。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 確かな学力の確立 (1) 授業の工夫・改善、ICT機器の活用による確かな学力の確立 (2) スケジュール管理の徹底による学習習慣（家庭学習等）の確立	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科との連携（教科会、授業研究会の充実）</li> <li>専門教育推進部との連携（資格取得のための支援体制の充実）</li> <li>学年会(組)、特別活動部(部顧問)との連携（家庭学習の習慣付け）</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 全教科で公開授業、全教員による授業参観の実施 (2) 授業改善に係る生徒意見の聴取と教員の改善計画、改善報告の実施 (3) 計画的な学習及び学習習慣の確立に向けたスケジュール管理手帳の活用推進	(1) 公開授業を実施する教科・科目数等 (2) 授業改善計画書及び改善報告書の提出 (3) スケジュール管理手帳の活用状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
◇全教科での公開授業、授業参観の実施 ・コロナ禍でのweb配信授業における研鑽 ・「主体的・対話的で深い学びの実践」をテーマに全教科で公開授業を実施（11月）、全教員が参観し意見用紙を提出 ◇授業改善に係る生徒意見の聴取と教員の改善計画、反省の実施 ・授業改善に係る生徒意見の聴取(7月)、改善計画(9月末)、改善報告の提出(2月) ◇スケジュール管理手帳の確実な実施 ・毎SHR及び各授業、ガイダンスでの活用推進	①全教科で公開授業が実施され、全教員が授業参観を行ったか。テーマに対する意識は高まったか。 ②授業改善計画書は全員提出され授業改善は進んだか。 ③スケジュール管理手帳は、毎SHRや授業等で活用され、計画的な学習、行動に結びついているか。	A B C D A B C D A B C D
11 成果・課題	○生徒から授業改善要望を聴取した結果、多くの率直な意見が寄せられた。教員にとっては指導する上での気付きが得られ、授業改善に対する意識が高まった。 ○前期のweb配信授業により職員一人一人のICT機器活用に対する意識が向上した。「主体的で深い学びの実践」をテーマとした公開授業週間においては導入されたメタモジを利用した研究授業も行われ、ICT機器活用による授業改善は進みつつある。 ▲コロナ禍で、全校集会や学年集会等の形式がとれず、HRでの活動の重要性が高まっている。毎SHRや授業などでの積極的な活用を依頼していく。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領が提唱する生徒に身に付けさせる資質・能力を踏まえ、ICT機器を活用した学習指導、授業改善につながる教員研修を実施する。</li> <li>生徒からの授業改善要望等に基づき、教員と生徒の良好な人間関係の構築の上に授業改善を進める。</li> <li>スケジュール管理手帳は、工夫ある活用事例を紹介するなどして活用を推進する。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月28日

【意見・要望・評価等】

・生徒の学力向上及び生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善に努める。

- 生徒の主体的な学習を促進するために、現在導入している I C Tを活用した授業を継続実施するとともに、（ I C T活用プロジェクトチームの支援を活かしながら、） 教員間の授業交流等も実施するとよい。
- 本年度より学校ホームページが見やすくリニューアルされている。このホームページ等を活用しながら広報活動に努め、学校の取組内容の認知度が高められるよう努める。また、ホームページのリンク先として、「地域（企業）のみなさまへ」を追加して、専門教育部等で実施している地域連携教育が一目でわかるページを追加すると良いのではないかと。
- 授業参観より、生徒は自分の考えを他者へ話す場面が多く見られ、充実した学習が行われていると感じた。